

大阪湾漁場環境速報

2023年12月13日発行
兵庫のり研究所

海域全般に、大型珪藻のコシノディスカスの発生量は大きく減少しており、栄養塩を消費する珪藻類は少ない状況です。窒素は、陸水等の影響が見られた湾奥部で10 μg-at/L以上、その他の海域では概ね3 μg-at/L前後の値となっています。

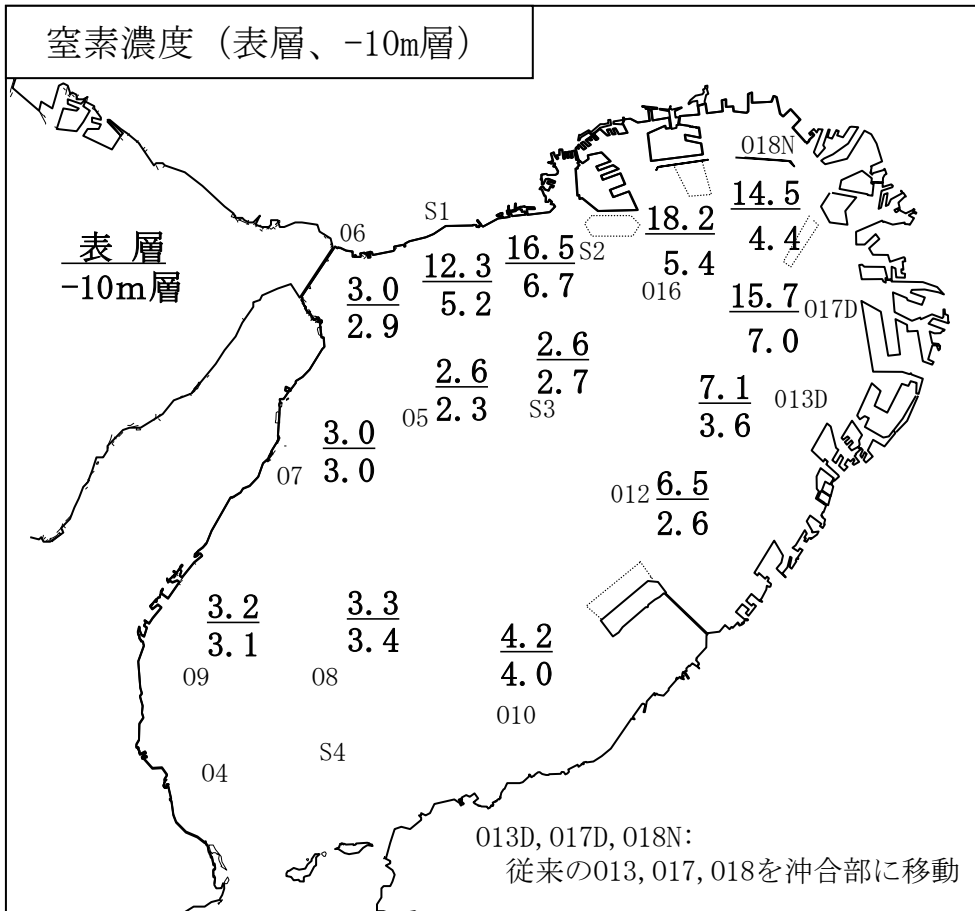
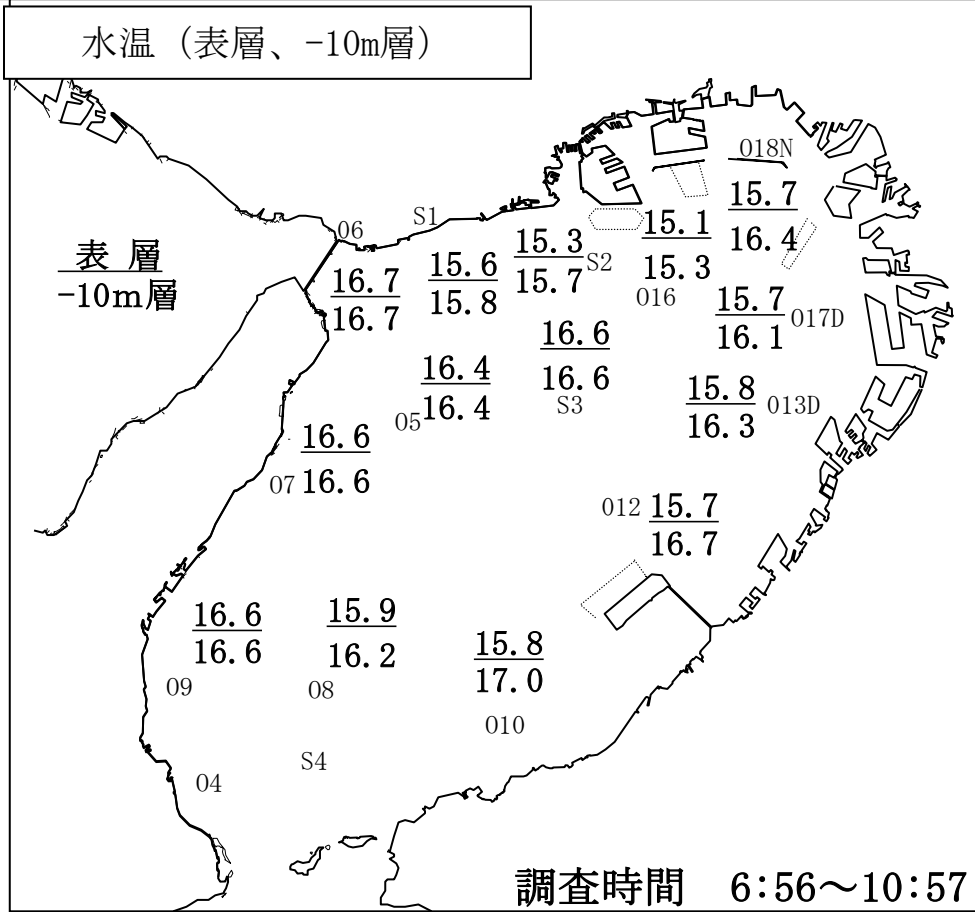
(水温) 表層は湾奥の陸水の影響が見られる地点で15℃台、湾中央から湾西部で16℃台で、平均16.0℃。平年比約0.8℃低い。-10m層は平均16.3℃(平年比-1.3℃)。

(塩分) 表層平均31.74psu(平年 31.76)。-10m層平均32.04psu(平年 32.14)。

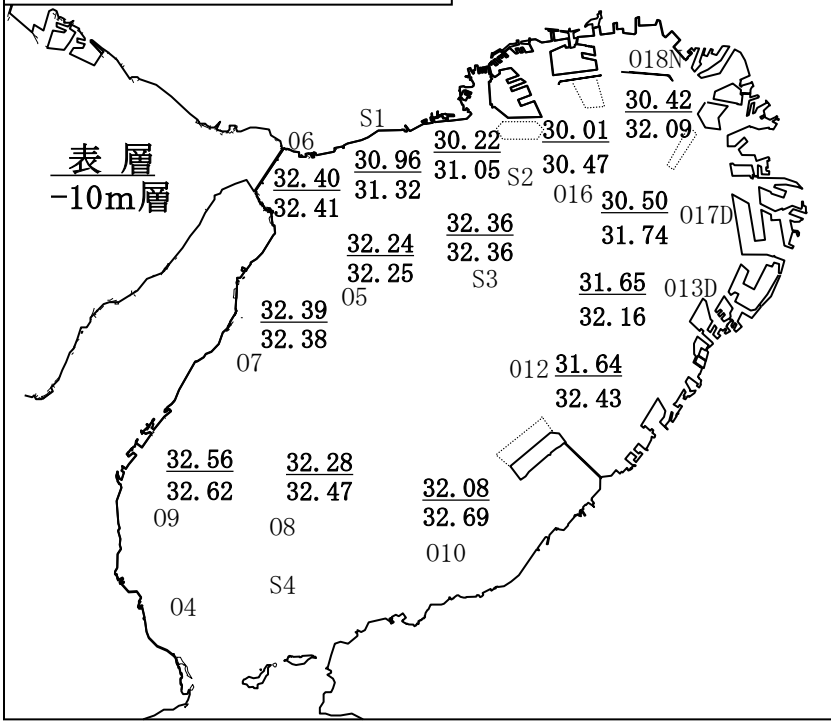
(栄養塩、他) 表層の窒素は平均6.9 μg-at/L、リンは平均0.60 μg-at/L。窒素は平年(8.7 μg-at/L)より低く、リンはほぼ平年(0.61 μg-at/L)並。-10m層(平均)は、窒素3.7 μg-at/L、リン0.59 μg-at/L。窒素は、須磨沖から湾奥・大阪南港沖にかけての水温及び塩分が低い海域で10 μg-at/L以上、堺沖と岸和田で6~7 μg-at/L台、その他の海域では概ね3 μg-at/L前後であった。湾全般に、表層では珪藻類がほぼ確認されず、-10m層においてコシノディスカスは確認されるが、発生量は少ない状況であった。

上段 (今回値)	2023年12月12日調査
中段 (昨年値)	2022年12月13日調査
下段 (平年値)	12月上旬

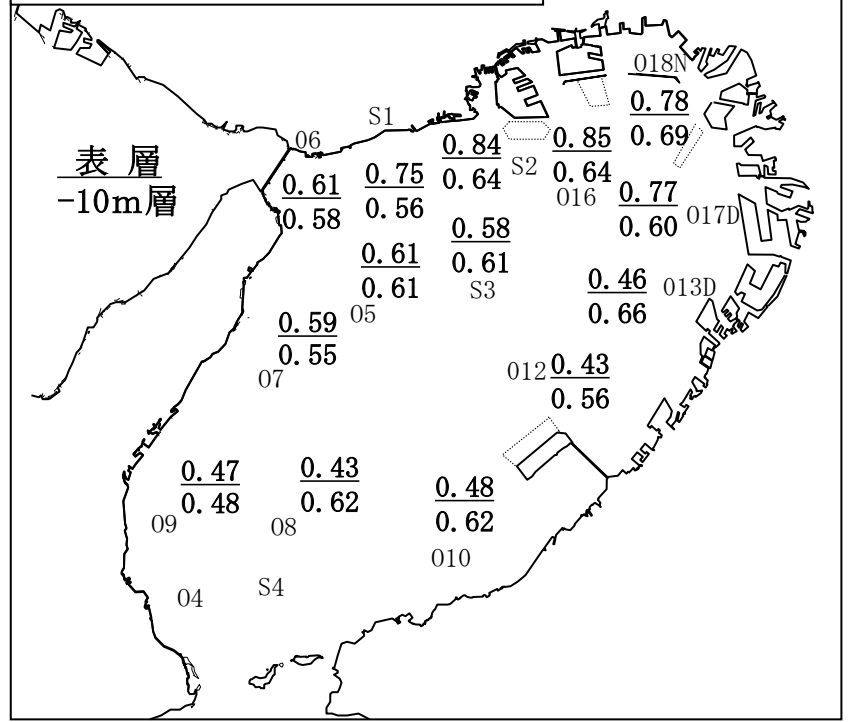
調査地点	水温 (°C)	塩分 (psu)	三態窒素 (μg-at/L)	磷酸 (μg-at/L)
04				
05	16.4	32.24	2.6	0.61
	17.0	32.67	5.4	0.60
06	16.7	32.40	3.0	0.61
	17.3	32.74	5.5	0.60
07	16.6	32.39	3.0	0.59
	17.3	32.74	5.5	0.60
08	15.9	32.28	3.3	0.43
	17.3	32.74	5.6	0.61
09	16.6	32.56	3.2	0.47
	17.3	32.77	5.3	0.60
010	15.8	32.08	4.2	0.48
	16.7	31.85	7.9	0.60
012	15.7	31.64	6.5	0.43
	16.0	32.07	7.6	0.53
013D	15.8	31.65	7.1	0.46
	16.0	31.79	9.8	0.60
016	15.1	30.01	18.2	0.85
	15.9	31.66	10.0	0.59
017D	15.6	30.41	15.8	0.69
	15.7	30.50	15.7	0.77
018N	15.7	30.42	14.5	0.78
	15.7	29.58	25.9	1.16
S1	16.0	29.74	23.5	1.00
	15.6	30.96	12.3	0.75
S2	17.3	32.76	5.7	0.58
	16.6	31.64	9.9	0.65
S3	15.3	30.22	16.5	0.84
	16.0	31.88	9.3	0.58
S4	15.7	30.75	14.6	0.69
	16.6	32.36	2.6	0.58
S4	17.5	32.80	5.5	0.55
	17.1	31.92	6.9	0.54



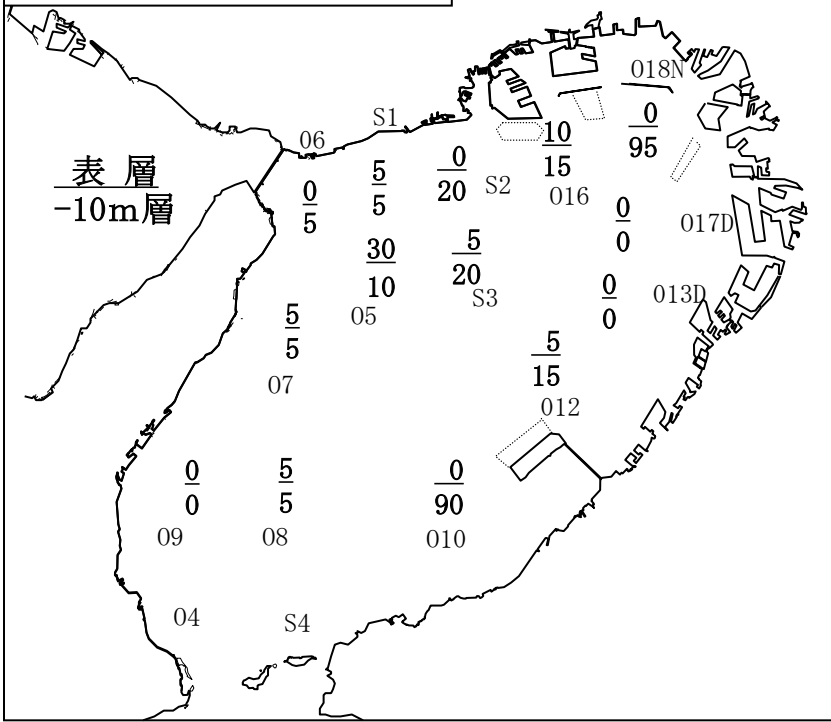
塩分 (表層、-10m層)



リン濃度 (表層、-10m層)



コシノディスクス (細胞/L)



スケルトネマ (細胞/ml)

